

○ T1

T1は円丘部南西側に設定したトレンチです。円丘部は過去に桃や大根、牛蒡等を育てていたようです。今年度は1段目平坦面から3段目斜面にかけて調査をおこなっており、古墳に関する遺構としては2段目斜面の葺石が確認できました。葺石は主に花崗岩や安山岩で構成されており、基底石から5～6段分が残存していました。基底石は40cm程度の石材で構成されており、長辺を横に向ける意識が見て取れます。基底石付近を中心に埴輪片が出土しています。元々は2段目平坦面に据えられていたものが、転落し1段目平坦面付近に溜まったものと考えられます。その他の地点、葺石より上部の斜面は後世の改変により残っておりませんでした。また、2段目平坦面や3段目斜面も同様に削平されており、築造当時の高さや斜面の角度等は分かりません。また、1段目の平坦面はトレンチ外まで続きますが、1段目斜面と墳端については溜池を造成した際に削られており残っていないと考えられます。

各地点で土層の状況を確認するために設定したサブトレンチでは元の丘陵部分である地山や盛土を確認することができました。

築造当時の状態が残っていない部分もありましたが、墳丘の形態や構造を理解する上では大きな成果がありました。今後も墳丘の形態を追及すべく調査を続ける必要があります。

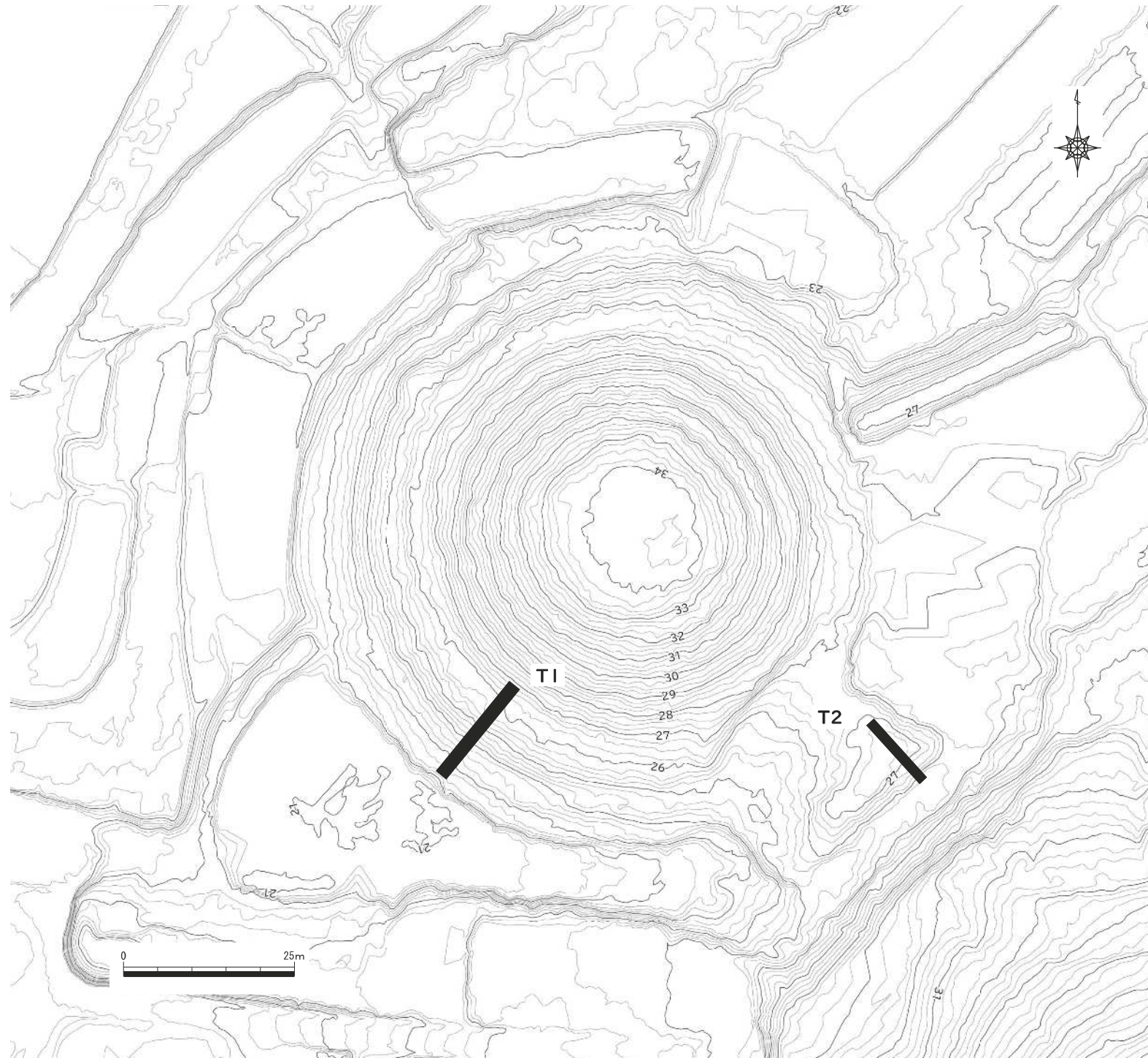


図2 小盛山古墳の墳丘測量図とトレンチ配置

○ T2

T2は造り出しに設定したトレンチです。造り出し部は過去に重機による土採り等が行われ、墳丘が大きく削り取られていることが現況からも分かります。トレンチは最も標高の高い地点が残存状況がよいと考え設定しました。

平坦部にあたる面は流土直下で元の丘陵部分にあたる地山を確認しました。結果として、築造当時の造り出しの平坦面は残存していないことが分かりました。

斜面部では葺石を確認することができました。葺石はT1と同様に10～40cm程度の花崗岩や安山岩を使用しています。また、斜面の一番下にあたる基底石も確認できました。この地点が造り出しの墳端に当たると考えられます。これにより、小盛山古墳の墳長や墳形に関する重要なデータを得ることができました。斜面やその外部からは埴輪片が見つかりました。これらの埴輪はもともと造り出しに据えられていたものが風化等で割れて転落したと考えられます。

今後はこの墳丘の外側がどのようなになっているのか、南西に続く丘陵部分との関係はどうか追及する必要があります。また、造り出しは一般的に祭祀のための施設と考えられていますが小盛山古墳では現在詳細が不明なため今後も調査を継続していく必要があります。

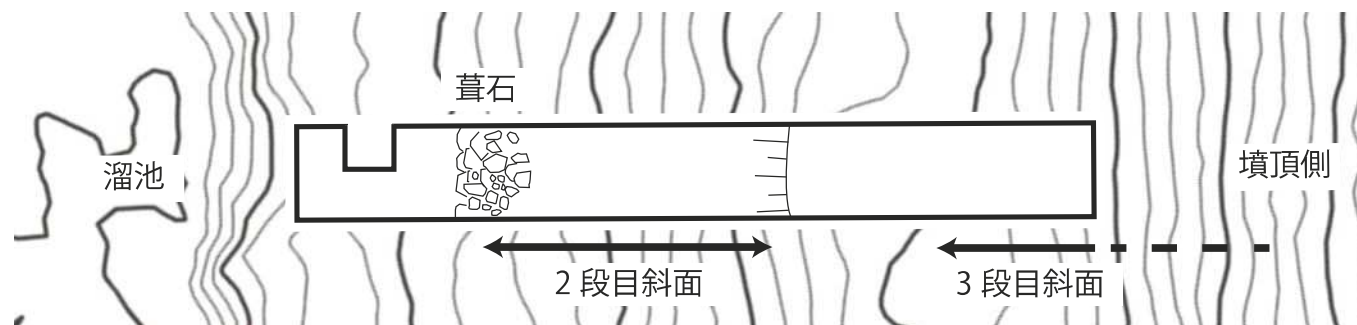


図3 T1 模式図

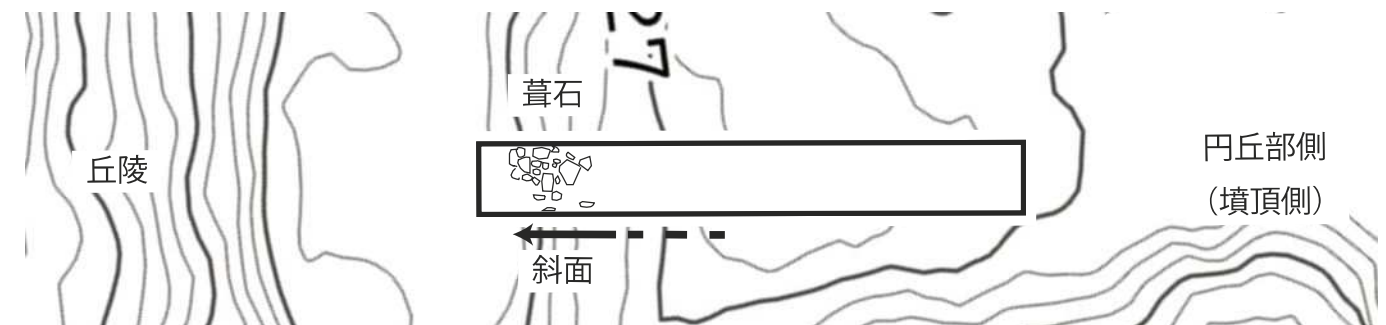


図4 T2 模式図